

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500306		
法人名	社会福祉法人 寿清会		
事業所名	グループホーム 笹森の屋	ユニット名	笹の屋
所在地	宮城県大崎市古川清滝字笹森118番1		
自己評価作成日	平成 23年 9月 28 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○季節感を感じとれる環境と、入居者様が喜んで頂ける、行事、イベントが豊富 ○地域行事への参加や小学校の定期慰問、地域ボランティアによる協力体制が整備されている ○出来る事への配慮、選択・決定の自由 ○本人の意欲向上、やりがいを感じる支援を行なっている。○グループホームの特性をいかし、普段の生活の中で生活リハビリを通じて自身回復の取り組みを行なっている。○社会生活の継続に向けて外出、買い物、ドライブ等の支援に取り組んでいる。○積極的な地域行事への参加、ボランティアの受け入れ及び協力を行なっている。○職員のチームケアへの取り組みに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内にケアハウス、デイサービスの施設があり、防災訓練等は合同で実施している。グループホームの周りには林檎、梨の果樹が植えてあり、入居者は春の花、秋の収穫の喜びを味わっている。地域との交流も盛んであり、特に小学校からの学芸会、運動会等への招待は入居者の楽しみの一つである。また、入居者の日々の生活模様を写真を中心に一人ひとりを取り上げて記事にした「個人新聞」を2ヶ月毎に作成して家族に送っており、家族とグループホームとのコミュニケーションの強化を図っている。グループホームの理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく」が定着していることが、入居者の笑顔からもうかがい知ることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム 笹森の屋**)「ユニット名 **笹森の屋**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にグループホームでの理念を作成し常に職員全員が共有できる所に配置し実践につなげている。	法人の理念を元に、グループホーム独自の理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」を定めている。入居者の残存能力の引き出しと生活のペースに合わせたケアを中心に考えている。理念はスタッフルームに貼付している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、学校行事等に参加している。施設行事にも地域の方を招いたり、町内会にも参加しており、ボランティアを含め交流の窓口は常に空けている。	地域とのつき合いとして、公民館での歌や健康体操のさわやか教室、グループホームでの夏祭り等、季節毎の行事に相互参加している。地区の小学校から運動会や学芸会への招待状が届くのが楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、施設行事等の交流の場を通じて地域と施設の理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催を目指し取り組んでいる。事業計画、年度目標、ケアサービス内容等の取り組みを報告の上、意見要望等を施設全体、ユニット内で話し合いを行いケアプラン等に繁栄させ改善に取り組んでいる。	運営推進会議は、行政、地域、家族代表が参加し行政は毎回参加している。前回、会議が双方向に欠ける、との指摘もあったが、議事録で改善されているのを確認した。外出の機会増の提案があり実行中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を取り合い情報の交換、報告、連絡、相談を行い協力体制に取り組んでいる。	市町村との連携は、定期的なグループホームの状況説明を通して取り組んでいる。また、介護保険法の改正に関しても随時問い合わせ、職員へ情報の展開を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの取り組み実践している。身体拘束の必要性がある場合は家族と相談を行い検討をしている。	玄関の出入りはセンサーで察知し施錠はしていない。身体拘束についても過去には家族に相談する事態になった事はあったが、拘束に至った事は無い。日常生活に起こりやすい身体拘束について勉強会を計画して理解を深めるように期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、計画作成者にて防止に向けての職員に指導を行っている。研修等の機会には参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体研修、介護支援専門員を中心に指導を行い、個々に合わせた支援体制を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に家族との面談を実施し十分な話し合いを行い、契約書、重要事項説明書を用い説明をし理解・納得を得ている。改定の際は説明を行ったうえ同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活で入居者様とのコミュニケーションの中で意見・要望。家族連絡、面会時、運営推進会議など御家族様等より意見を頂いて、ご意見箱を設けてユニット内グループホーム全体としての意見として反映している。	家族に意見を聞き、運営推進会議へ家族代表が参加したり、各種行事等の折に個別に要望を聞いている。また、ユニット毎に「個人新聞」(記事は入居者個人が中心)を2ヶ月毎に発行し、コミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議やリーダー会議などに意見や提案を聞く機会を設けている。また、各委員会などで責任をもたせ具体的な運営について各事業所の意見(主体性)提案をさせ反映させている。	法人全体の取り組みとして、広報委員会、給食委員会等の各種委員会があり、各ユニットから代表が参加している。この委員会は、改善や行事等の企画から実践まで一環して任されており、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日日数、給与改善(介護給付金など)によりやりがいをもつように常に前向きに他事業者と比較しながら処遇の改善や職場環境整備に努めている。又、評価制度の改善及び委員会活動の評価など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としてキャリアアップにより昇給昇格及び役職者含め育成研修計画があり、内外の研修を実施し、特に内研の委員会主導の勉強会や資格取得者のフォロー(実習)により働きかけや意識向上につとめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者実施の研修受入(ヘルパー養成)や介護実習(基礎研修)の受入が多く、同業者と交流するまでにいたらない。法人として医療機関、老健、他居宅、民生委員など中心に管理者、計画作成者に取り組みをさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の相談及び入居前・後等必要に応じ直接相談を行い、本人の様子、不安や悩み等を聞き、少しでも安心感を持って頂ける様支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談及び入居前・後等必要に応じ直接相談を行い、本人の様子、不安や悩み等を聞き、家族の不安や悩み等を聞き、少しでも安心感を持って頂ける様支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来館時、連絡があった際状況の確認を行い情報を基に支援の方向性を見極め、状況に合わせて他のサービスや申請等情報提供や確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者として常に尊敬できる気持ちを持ち、入居者様に教わりながら、一緒に生活、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様へ状況や様子等伺い、家族の思いや、希望、要望等取り入れながら目標やケアの内容を検討し本人、家族、にとって良いケアを行えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、入居後も、ご家族様、ご親戚、ご友人等に面会や、外出の協力をお願いしている。又、電話等で連絡が取れるようにしている。	入居後も、馴染みの人との絆が保てるように定期的に有償ボランティアの理髪店へ行ったり、2ヶ月に1回程度は家族や友人等懐かしい人に会える機会をつくっている。その機会は日常の対話の中から推察している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や性格、思考等を等配慮し、活動内容によってグループ、場所の変更等行いながら、お互いを支えあえる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時後状況によりますが、退去後の様子の確認、相談等あれば随時アドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族等と常に相談を行い、一人一人の思いを大切に暮らしの希望や意向を確認しながら、安心して日々楽しく生活できる環境を提供している。	日常の触れ合いの中で、特に1対1になる機会、入浴介助時等を活かして、本人が何を求めているのかを焦らず、ゆっくりと聞き出すようにしている。また、家族が訪問の際、入居者の日々の行動を報告し相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や調査表、センター方式、家族等からの情報等日々確認、情報を得ながら現状を把握する事に努め、馴染みのある暮らしの環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が入居者様の生活状況、健康状況、出来る事等把握し、心地よい暮らしを支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族へ現状の説明及び要望等お聞きし、担当者及び全職員でモニタリングを行い、カンファレンスにて職員から、意見やアイデア等をまとめて入居者様にとってより良い介護計画書を作成している。	入居者に関する情報を全職員が共有するために、アセスメント結果や気付き等を「入居者状況ノート」に記録し、活用している。特に、職員によってケアの仕方に違いが生じないように、「チームケア」に力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアプラン実施表、申し送りシート、連絡ノート、モニタリング表等活用し、職員間での情報の共有を図り、計画書に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人である、デイサービス、ケアハウス設備、敷地をを活用し、温泉、カラオケ、バーベキュー、芋煮等、イベントや様々なケアへ活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や地元小学校の慰問や小学校行事に積極的に参加しながら地域からの協力・支援を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医療機関を利用している方は協力病院を利用するか現在の医療機関を継続するか御家族様と相談を行っている。受診の際は日頃の生活状態や様子を記載しバイタル表と合わせて主治医へ報告し診察の結果や助言を頂いている。	医療受診の現状は、約半数がかかりつけ医で家族同行となっている。その際は日常の状況記録とバイタル表を提供している。結果は医療関係受診表に記録している。協力医の場合も職員が同行し同様となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院、かかりつけ医療機関、同法人の看護職員と随時相談を行い、体調不良や急変時の対応等の助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後本人の状態を確認しながら病院関係者、御家族様と相談を相談を行いながら今後の方向性を明確にし治療、退院後の生活に向けて支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居面談時、契約時に契約書、重要事項説明書等を用いて方針や取り組みを伝えご理解を頂いている。入居後も本人・家族共話し合いを行い今後の方向性を明確にし共有している。また、他の医療機関、福祉施設等への情報交換を行い安心ができる支援を行っている。	重度化及び終末期の対応は、契約書等の説明時に方針を説明している。前回の外部評価で、家族の意向の同意書作成が次のステップへの期待となっている。取り組み状況を確認したところ、『重度化・終末期生活支援に関する覚書』として、現在検討中であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人看護師の指導による救命救急の内部研修を定期的実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。避難経路及び緊急連絡網、防災マニュアルの整備を行い対応の徹底を行っている。又、非常用食材等は一括して同敷地内の本部に一括して保管している。消防署との直結の非常用通報装置を整備している。非常時には地域とも連携を図れるようにしている。	防災訓練は同一法人の他の事業所と合同で春と秋の2回実施している。春は夜間想定で実施している。非常用通報装置の定期点検立会も実施している。スプリンクラーは11月下旬に完了することとなっている。	防災訓練の実施が、法人内の参加のみで実施されており、地域からの参加が見られない。再度、運営推進会議等を通して地域への協力要請を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言動を否定せず接し、敬意を払った言葉かけを行っている。又、居室の出入りは必ず本人の同意を得て行き、排泄時は、他の方に聞こえないよう配慮し、時には耳元で声を掛けたりと配慮している。	毎月のフロア会議で入居者に関する情報の交換をしている。職員同士でもお互いの接し方について採りあげて議論することもある。入室の際や排泄誘導時の声掛け等、入居者の身になった声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状況に合わせて声掛けを行い、本人の意思を確認し、自己決定が行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活スタイル、ペースを把握し、会話の中からその日行いたい事を見出し、又、行いたい事を伺うなど希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の着たい洋服を選んで頂いたり、一緒に選らんだり、希望に添って支援を行っている。外出時等は、その人らしい外出着への装いを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に調理、盛り付け、片付け等行っている。定期的に行事食を提供し旬の食材を味わって頂く等、楽しみある食事を支援している。	給食委員会が毎月開催され、入居者の禁止食品の確認や行事食の内容検討が行われている。栄養管理は、法人の栄養士が定期的に確認している。食事の準備、片付けも入居者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の能力に合わせた食事形態の提供を行っている。生活健康表、水分表にて、食事、水分量を記録、把握し、その時の状況に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、不足分は一部介助行う等し、清潔保持に努めている。毎年協力歯科医院より、歯科検診、治療を行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄支援を行い、水分量、既往、排泄間隔、体調等を把握し本人にあった排泄ケアを行っている。	トイレでの通常排便を目標に、入居者一人ひとりの排泄間隔を確認して誘導している。夜間も、日中と同様に声掛けして、極カトイレでの排泄に努めている。入居者の約半分は普通パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事形態の検討、各体操、運動、散歩等に取り組んでいる。又、便秘傾向の場合主治医とも相談を行い助言を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後、曜日指定等本人の希望を取り入れ、体調を考慮し対応できるように支援している。	入浴は隔日であるが入居者の希望を大切に柔軟に対応している。入浴を拒否する場合は、その気になるまで待つこととしている。介助を通して思いや悩み等を聞き、毎日の生活が楽しいものになるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活スタイル、ペースを尊重すると共に、居室以外でも休息がとれる環境を整えている。又、体調に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬見本、作用、副作用表作成し、職員全員が周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、不得意、性格等を把握し、やりがい、生きがい、必要とされている事を感じて頂く為、昔から行ってきた事をできる限り行える様な環境を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物や各季節事に入居者様から出掛けたい所を伺い、意向に合わせた、ミニ旅行等の外出支援を行っている。	入居者の希望に応じて、可能な限り積極的に外出するようにしている。車椅子の人も法人のリフト車で外出している。外出しない日が続いている入居者の場合には「外気浴をしよう」と声掛けして誘っている。週1回の買い物を楽しみにしている入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時等は、本人へお金をお渡しし、購入したい物や、食べたい物を選んで頂き、ご自分で会計を行って頂いている。 (数名の方は常時ご自分でお小遣い程度の現金を管理されています)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	笹森の里としての広報誌や、グループホーム独自のお便りを作成したり、年賀状等を作成し、ご家族様へ様子等の報告や伺いを等行っている。又、ご本人の希望により、電話への応対も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶の間に茶筆筒や置物等があり、食堂には季節感が味わえる木や果物、草花を眺め事ができ、又、掲示板には四季折々の手作りの装飾や写真を貼って、居心地の良い、空間を提供している。	食堂兼リビングルームはゆったりとした造りで、床暖房である。畳敷きの小上がりの一角もあり、折り紙や手芸等を楽しむことができる。また、グループホームを囲んで林檎、梨の果樹が植えてあり、春の花、秋の収穫の楽しみが入居者の話題にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間や小上がり、玄関等のベンチにて、一人や小人数で過ごせるスペースを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族様と相談しながら、馴染みの物は出来る限り持ち運んで頂き、設置場所もご本人の意向を聞きながら対応している。	居室は、入居者の希望に応じて家具や写真等思い出の品々で飾られている。全室がエアコンによる温度調節となっている。窓からは季節の花々や果樹の結実の過程等を楽しめる快適な住居となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現状態を把握し、出来る事、出来そうな事に目を向け、職員と一緒に、ご本人のペースで行う事ができるよう心がけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500306		
法人名	社会福祉法人 寿清会		
事業所名	グループホーム笹森の屋	ユニット名	森の屋
所在地	宮城県大崎市古川清滝字笹森118番1		
自己評価作成日	平成 23年 9月 28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○季節感を感じとれる環境と、入居者様が喜んで頂ける、行事、イベントが豊富 ○地域行事への参加や小学校の定期慰問、地域ボランティアによる協力体制が整備されている ○出来る事への配慮、選択・決定の自由 ○本人の意欲向上、やりがいを感じる支援を行なっている。○グループホームの特性をいかし、普段の生活の中で生活リハビリを通じて自身回復の取り組みを行なっている。○社会生活の継続に向けて外出、買い物、ドライブ等の支援に取り組んでいる。○積極的な地域行事への参加、ボランティアの受け入れ及び協力を行なっている。○職員のチームケアへの取り組みに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内にケアハウス、デイサービスの施設があり、防災訓練等は合同で実施している。グループホームの周りには林檎、梨の果樹が植えてあり、入居者は春の花、秋の収穫の喜びを味わっている。地域との交流も盛んであり、特に小学校からの学芸会、運動会等への招待は入居者の楽しみの一つである。また、入居者の日々の生活模様を写真を中心に一人ひとりを取り上げて記事にした「個人新聞」を2ヶ月毎に作成して家族に送っており、家族とグループホームとのコミュニケーションの強化を図っている。グループホームの理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく」が定着していることが、入居者の笑顔からもうかがい知ることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結(詳細)(事業所名 **グループホーム笹森の屋**)「ユニット名 **森の屋**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にグループホームでの理念を作成し常に職員全員が共有できる所に配置し実践につなげている。	法人の理念を元に、グループホーム独自の理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」を定めている。入居者の残存能力の引き出しと生活のペースに合わせたケアを中心に考えている。理念はスタッフルームに貼付している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、学校行事等に参加している。施設行事にも地域の方を招いたり、町内会にも参加しており、ボランティアを含め交流の窓口は常に空けている。	地域とのつき合いとして、公民館での歌や健康体操のさわやか教室、グループホームでの夏祭り等、季節毎の行事に相互参加している。地区の小学校から運動会や学芸会への招待状が届くのが楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、施設行事等の交流の場を通じて地域と施設の理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催を目指し取り組んでいる。事業計画、年度目標、ケアサービス内容等の取り組みを報告の上、意見要望等を施設全体、ユニット内で話し合いを行いケアプラン等に繁栄させ改善に取り組んでいる。	運営推進会議は、行政、地域、家族代表が参加し行政は毎回参加している。前回、会議が双方向に欠ける、との指摘もあったが、議事録で改善されているのを確認した。外出の機会増の提案があり実行中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を取り合い情報の交換、報告、連絡、相談を行い協力体制に取り組んでいる。	市町村との連携は、定期的なグループホームの状況説明を通して取り組んでいる。また、介護保険法の改正に関しても随時問い合わせ、職員へ情報の展開を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの取り組み実践している。身体拘束の必要性がある場合は家族と相談を行い検討をしている。	玄関の出入りはセンサーで察知し施錠はしていない。身体拘束についても過去には家族に相談する事態になった事はあったが、拘束に至った事は無い。日常生活に起こりやすい身体拘束について勉強会を計画して理解を深めるように期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、計画作成者にて防止に向けての職員に指導を行っている。研修等の機会には参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体研修、介護支援専門員を中心に指導を行い、個々に合わせた支援体制を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に家族との面談を実施し十分な話し合いを行い、契約書、重要事項説明書を用い説明をし理解・納得を得ている。改定の際は説明を行ったうえ同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活で入居者様とのコミュニケーションの中で意見・要望。家族連絡、面会時、運営推進会議など御家族様等より意見を頂いて、ご意見箱を設けてユニット内グループホーム全体としての意見として反映している。	家族に意見を聞き、運営推進会議へ家族代表が参加したり、各種行事等の折に個別に要望を聞いている。また、ユニット毎に「個人新聞」(記事は入居者個人が中心)を2ヶ月毎に発行し、コミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議やリーダー会議などに意見や提案を聞く機会を設けている。また、各委員会などで責任をもたせ具体的な運営について各事業所の意見(主体性)提案をさせ反映させている。	法人全体の取り組みとして、広報委員会、給食委員会等の各種委員会があり、各ユニットから代表が参加している。この委員会は、改善や行事等の企画から実践まで一環して任されており、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日日数、給与改善(介護給付金など)によりやりがいをもつように常に前向きに他事業者と比較しながら処遇の改善や職場環境整備に努めている。又、評価制度の改善及び委員会活動の評価など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としてキャリアプランにより昇給昇格及び役職者含め育成研修計画があり、内外の研修を実施し、特に内研の委員会主導の勉強会や資格取得者のフォロー(実習)により働きかけや意識向上につとめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者実施の研修受入(ヘルパー養成)や介護実習(基礎研修)の受入が多く、同業者と交流するまでにいたらない。法人として医療機関、老健、他居宅、民生委員など中心に管理者、計画作成者に取り組みをさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後コミュニケーションを多くとりながら本人の困っていることや不安、要望などをアセスメントを行いながら伺うようにしている。。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居前・後等相談を行い、本人の様子、家族状況等を聴きできるだけ要望や悩みなど伺い安心感を持てるよう支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の残存能力や認知能力を日常生活状況から観察し、できるだけご本人の残存能力を生かせるよう支援するように努めています。又、他のサービスや申請等情報の提供や確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として昔の風習や生活の知恵など聞きながら何かを作ったりして共に支え合いながら過ごしています。入居者の方が何らかの理由で今までできていたことが出来なくなったりして不安を抱いた時にできなくなったところを助けて自信を持っていただける様に関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が家族の方との連絡を望まれる場合はご家族様へ事前にご本人の状況を伝えご理解を頂き電話にて会話していただいています。他に病院受診や消耗品の持参で月に1～2回は面会に来ていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様へ連絡して確認し、電話連絡やお手紙のやり取りなどご本人が望まれる場合は馴染みの関係が途切れないように支援しています。	入居後も、馴染みの人との絆が保てるように定期的に有償ボランティアの理髪店へ行ったり、2ヶ月に1回程度は家族や友人等懐かしい人に会える機会をつくっている。その機会は日常の対話の中から推察している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がどの様に会話をしてどの様に相手に気を配られているか。また入居者様同士の交流関係を観察しできるだけ入居者様にお任せしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族様から相談事があれば伺い情報の提供などに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ思いや意向が会話の中から聞き出せるよう会話のコミュニケーションに努めています。困難な場合はご家族様から情報提供いただき検討しています。	日常の触れ合いの中で、特に1対1になる機会、入浴介助時等を活かして、本人が何を求めているのかを焦らず、ゆっくりと聞き出すようにしている。また、家族が訪問の際、入居者の日々の行動を報告し相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の協力のもと、分かる範囲でセンター方式の書類を利用して記入いただくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事出来ないこと、分かること分からないことなどアセスメントし把握するようにしています。心身状態や生活パターンは観察して現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況を常に職員同士で把握し身体的、認知的低下によりおこる問題点に対し職員、家族、医療と相談しアイデアや工夫をケアに反映させるように介護計画を作成しています。	入居者に関する情報を全職員が共有するために、アセスメント結果や気づき等を「入居者状況ノート」に記録し、活用している。特に、職員によってケアの仕方に違いが生じないように、「チームケア」に力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新しい課題に対して取り組んだことの結果や気づき、工夫など個人の記録として残しケアに反映させたり介護計画の見直しなどに活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の支援で満足されているか、また満足されていないかどのような点が不満と思われるのか見直し現状で不足していることを色々な機能を利用して支えられるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や地元小学校の慰問や小学校行事に積極的に参加しながら地域からの協力・支援を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医療機関を利用している方は協力病院を利用するか現在の医療機関を継続するか御家族様と相談を行っている。受診の際は日頃の生活状態や様子を記載しバイタル表と合わせて主治医へ報告し診察の結果や助言を頂いている。	医療受診の現状は、約半数がかかりつけ医で家族同行となっている。その際は日常の状況記録とバイタル表を提供している。結果は医療関係受診表に記録している。協力医の場合も職員が同行し同様となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院、かかりつけ医療機関、同法人の看護職員と随時相談を行い、体調不良や急変時の対応等の助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後本人の状態を確認しながら病院関係者、御家族様と相談を相談を行いながら今後の方向性を明確にし治療、退院後の生活に向けて支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居面談時、契約時に契約書、重要事項説明書等を用いて方針や取り組みを伝えご理解を頂いている。入居後も本人・家族共話し合いを行い今後の方向性を明確にし共有している。また、他の医療機関、福祉施設等への情報交換を行い安心ができる支援を行っている。	重度化及び終末期の対応は、契約書等の説明時に方針を説明している。前回の外部評価で、家族の意向の同意書作成が次のステップへの期待となっている。取り組み状況を確認したところ、『重度化・終末期生活支援に関する覚書』として、現在検討中であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人看護師の指導による救命救急の内部研修を定期的実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。避難経路及び緊急連絡網、防災マニュアルの整備を行い対応の徹底を行っている。又、非常用食材等は一括して同敷地内の本部に一括して保管している。消防署との直結の非常用通報装置を整備している。非常時には地域とも連携を図れるようにしている。	防災訓練は同一法人の他の事業所と合同で春と秋の2回実施している。春は夜間想定で実施している。非常用通報装置の定期点検立会いも実施している。スプリンクラーは11月下旬に完了することとなっている。	防災訓練の実施が、法人内の参加のみで実施されており、地域からの参加が見られない。再度、運営推進会議等を通して地域への協力要請を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人に個室を用意し、個人のプライバシー確保に努めている。入室する際などもご本人に了承を得てから入室するように努めている。入居者様一人一人の声に耳を傾け要望にできるだけ添えられる様に努めている。	毎月のフロア会議で入居者に関する情報の交換をしている。職員同士でもお互いの接し方について採りあげて議論することもある。入室の際や排泄誘導時の声掛け等、入居者の身になった声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状況あわせて常に声掛けには注意をし、選択肢を伝えご本人に選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今ご本人が何をしようとされているのか伺い、本人の決定を第一優先として事柄を進めるようにしている。また何をしたらいいの？と聞かれる方にはご本人が好まれるようなことを提供するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今ご本人が何をしようとされているのか伺い、本人の決定を第一優先として事柄を進めるようにしている。また何をしたらいいの？と聞かれる方にはご本人が好まれるようなことを提供するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月季節にちなんだ行事を企画をし入居者の皆さんと相談し献立(おやつ程度)を考え調理から盛り付けまで役割分担し職員と一緒にやっている。	給食委員会が毎月開催され、入居者の禁止食品の確認や行事食の内容検討が行われている。栄養管理は、法人の栄養士が定期的に確認している。食事の準備、片付けも入居者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や水分の提供時、ご本人の状況に合わせて提供するようにしています。水分量は常に記録して把握しています。摂取量が少ない方にはこまめに提供し脱水などに気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝前は口腔ケアの声掛けを行い、自立で口腔ケアを行うことができない方には一部介助(用具の手渡し)など行っています。義歯を使用されている方には就寝前、入歯洗浄剤を使用しています。毎年協力歯科医院より、歯科検診、治療を行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自ら尿意・便意のある方は見守りに対応し、失敗してしまった場合は一部お手伝いする様になっています。尿意・便意の無い方は定期的に誘導を行ったり排便がスムーズにない時は腹部を摩り自然排便できるようにしています。	トイレでの通常排便を目標に、入居者一人ひとりの排泄間隔を確認して誘導している。夜間も、日中と同様に声掛けして、極カトイレでの排泄に努めている。入居者の約半分は普通パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な排便が見られないときは医師の指示に従ってその方に合わせて整腸剤の調整や下剤の使用をしています。他、水分をできるだけとっていただき運動もできるだけ行う様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「今日、お風呂無いの？午前の一番目が良いんだ…」など入浴の希望が聞かれる方は出来るだけ要望に応えられるように努めています。	入浴は隔日であるが入居者の希望を大切に柔軟に対応している。入浴を拒否する場合は、その気になるまで待つこととしている。介助を通して思いや悩み等を聞き、毎日の生活が楽しいものになるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安や悩みのある方の話を聞き、安心できる様な会話を提供しています。休息は昼間それぞれ居室に戻り適度に休まれるが、遠慮して居室で休まれない方には良かったら少しお部屋で足を伸ばして休んできて下さいよとこちらから促したりもします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬を服薬時サンプルと照合。手渡しで薬を渡し、確実に服用したかまで確認。薬の内容の変化によって体調の変化が見られるかもしれないので観察を行い、状態に変化見られた場合は迅速に医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としては決めていないが出来る能力のある方にできることを提供している。楽しみを持った生活を送れる様アセスメントを行い、その人に合う内容を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に外出を心待ちにされている方には定期的な外出を試みています。その他、行事外出やドライブなど天候や状況に合わせて外出をし、社会的な繋がりが持てるように支援しています。	入居者の希望に応じて、可能な限り積極的に外出するようにしている。車椅子の人も法人のリフト車で外出している。外出しない日が続いている入居者の場合には「外気浴をしよう」と声掛けして誘っている。週1回の買い物を楽しみにしている入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持を望まれご家族様にご理解頂いている場合は個人が管理を行ってます。買い物時は所持金から支払ったり預かり金からお渡し会計を行って頂いてます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話を希望される際は電話を取り次ぎご本人に代わります。また知人の方から電話がかかってきた場合もご本人に確認してご本人が相手先のことを分かっているようであれば電話を取り次ぎます。手紙も同様で本人の馴染の人を大切にしたいと思い支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは皆さんが集まって会話できるスペースを設けています。その他、本を読んだり、手芸をしたりと個人でのんびり過ごせる場所なども工夫して作っています。装飾は季節のものを飾り季節感を出したりしています。廊下の照明は日中と夜間で白色灯と暖色灯に分けて使用しています。	食堂兼リビングルームはゆったりとした造りで、床暖房である。畳敷きの小上がりの一角もあり、折り紙や手芸等を楽しむことができる。また、グループホームを囲んで林檎、梨の果樹が植えてあり、春の花、秋の収穫の楽しみが入居者の話題にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は席は自由席にしています。そのため各自、自分が過ごしやすい場所へ移動して過ごされています。居室でもそれぞれが好きなように過ごせる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は以前使用した物などをご家族様へお願いして持ってきていただいたりしてご本人が落ち着いた生活を送れるようにしています。	居室は、入居者の希望に応じて家具や写真等思い出の品々で飾られている。全室がエアコンによる温度調節となっている。窓からは季節の花々や果樹の結実の過程等を楽しめる快適な住居となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	できるだけ自立した生活を送れるように「できること」「わかること」を把握し、居室内や建物内の設備について職員同士話し合いを行い安全な環境を整える様工夫しています。		